

第5回ひまわりの里基本計画策定委員会

日時:令和2年10月18日(日)16:00~17:40

場所:北竜町公民 2階大ホール

出席者 別紙名簿のとおり委員26名、事務局7名、傍聴11名

1 開 会 産業課 細川課長進行

2 挨拶 佐野町長あいさつ

3 議 題 進行~鈴木委員長

(1) ひまわりの里基本計画について~事務局 吉田係長より内容を抜粋したスライドにより説明

○ひまわりの里整備について(P19~P29)

~ 隈研吾建築都市設計事務所 田口設計室長より説明

【田口委員】

ひまわりの里基本計画策定委員会は今回で最後となります。前回弊社の隈の方から提案させて頂いて概ね良いとの評価を頂いたと思っております。今回はそれをブラッシュアップした内容になっております。

現在ひまわりの里は観光センター、展望台、ノンノの森や野球場の周りには芝生があり、この芝生が魅力的な場所ですが現状側溝があり分断されています。全体計画の中ではお客様がひまわりの里に入り、そこからつながりが作れるように全体像を描いております。

デザインコンセプトは「北竜町を象徴する木」、昨年完成した保育所の方でも北竜町の木を使っていますが、全体でデザインの統一化を図り、町としてのイメージを分かりやすくすることが出来ると思っております。本日お越し頂いている梅原様が「あかるい農法」というキャッチコピーと黄色いギンガムチェックのグラフィックを作っておりますが、そのギンガムチェックの模様が実は建築との相性が良く、ギンガムチェックのような格子状の組み方を施設全体で用いることでこの町がひまわりで溢れている町という印象を強く植え付けられるのではないかなと思っております。

今ある観光センターは賑わっているのですが、ひまわり畑と設置高さがずれているため、ひまわりとの関係性が薄いといえます。もう少しひまわりの里に来ていると感じられるように、新しく作る観光センターはひまわりの里の中に作ることでよりひまわりを感じながら観光を楽しめるように考えております。

また、現状の観光センターは冬場に屋内球技場として使っている経緯があるので取り壊さず、屋根だけを改修し再利用します。さらに観光センターが抜けた空間を観光案内所とすることで、駐車場が近くにある立地を生かし観光に来た方の目印になり、観光の仕方を学びながらひまわりを見ることが可能になり、新しい観光センターから新しい展望台をめぐり、様々な角度からひまわりを見ながら歩くことが出来ると思います。

回遊性を促進させるために展望台を抜けた先にそのままノンノの森に続く散策路を提案します。ノンノの森からは芝広場に抜けることも可能です。遊覧車も重要な観光資源ですのでこれまで通りに活かすよう計画していきます。トレーラーハウスは移動施設なので駐留しているだけでなく遠くに置くこともできます。

展望台は登ることで、ひまわり観光において別の視点をこの施設は与えてくれると思います。ひまわり畑は北竜町だけでは無く世界各国にあります。他にはないひまわりの楽しみ方を作ってくれる重要なポイントです。デザインは、ギンガムチェックをモチーフにした格子状の展望台です。この展望台は階段で上るほかエレベーターもありバリアフリーにも対応しています。階段状の展望台は、自分の見たい高さを選べるようになっているので新しい景色を獲得するためには得策です。高さは3階建です。観光に来た方の目印にもなります。

観光センターも格子状のデザインを採用します。我々が一番配慮したのは配置計画です。導入部が穴になっておりそこを抜けて奥に進むとひまわり畑が広がり観光客をお出迎えします。また、このひまわりゲートを抜けてコの字型にひまわりを囲う形状とすることで、どこで飲食をとられてもひまわりを身近に感じられるような施設になっています。飲食スペースは場合によってはコロナ禍において、子どもたちの勉強スペース、ワーケーション等にも使えるのではないかと考え通年使うという観点でも色々応用できると思います。店舗数については既存の観光センターに倣って配置しています。

観光案内所は今ある観光センターを白く塗り、その上に格子状の木材を置くことで北竜町の格子のデザインを印象づけます。また、既存の観光センターは壁で閉ざされているのでガラスに交換することで開かれた認知しやすい観光案内所になります。また駐車場の方から屋外トイレが見えるのですが景観上良くないので屋内に移転します。観光案内所と公衆トイレの機能を加えながら、冬季はスポーツなどのいろいろな使い方が出来るようにします。

芝広場は前述のとおりノンノの森を抜けひまわりの畑と繋がることで行き来が出来るようにしようと思います。

最後はトレーラーハウスですが、電源を供給できるので好きなところへ移動させカフェをしたり出来る施設なので貢献できるのでは無いかと思います。

○質疑

【竹林委員】

- ・北竜町は雪が多いが、観光センターの建物の強度や水の流れはどうか。

【田口委員】

- ・強度について北竜町は積雪1.5mという基準があってそれに対応した強度となっていますので問題ありません。排水に関しても緩やかな傾斜をつけて人が通らないところに流れるようになっています。今後実際に作っていく際に詳細な検討をします。

【竹林委員】

- ・雪は手で下ろす？

【田口委員】

- ・現状その予定をしていますが、基本構想なので次のステップで再考が必要かとは思っています。

【竹林委員】

- ・手で下ろすのは大変なので北海道では融雪溝を作ってそこに自然に流れるようにするのですが、そういう対策を考えた方がいいと思います。

【田口委員】

- ・そういうことも今後の参考にさせて頂き検討していきたいと思っています。

【岩本委員】

- ・この建物はどのくらい持つのでしょうか。

【田口委員】

- ・基本的には木造では無く鉄骨で作ります。木は構造をサポートするために使っていますので施設自体の耐用年数は一般的に鉄骨造は30年くらいは使えます。メンテナンスについては日常的な清掃が必要ですが、それがボロボロに朽ちてくれば交換も必要になりますがそれも30年はもつ期待ができます。

【岩本委員】

- ・30年くらい他ったらまたこのようなものを建てないといけないということですか。

【田口委員】

- ・あくまで一般的に30年ということで実際は他の建物もそれ以上使っています。そこから30年経ったときにまだ使えるのかということ耐震診断などそのときに考えなければなりません。

【岩本委員】

- ・さっき3000万維持費にかかるよといったけど町も建てた以上は維持する以上に次に建てる段取りをしなければなりませんからそれも積み立てなければなりませんことですか。

【鈴木委員長】

- ・やり方はその町によって違います。行政としてはどうですか。

【高橋副町長】

- ・30年経っても立て替えるとか大規模改修とか直して使っていくというやり方もあるのでそのときに判断していきます。財源についても徴収方法等を検討しながら町費を全部使わないようにして財源を確保していきたいと思います。

【岩本委員】

- ・ハッキリしていないということですね。

【高橋副町長】

- ・今の見解としてはそうですね。

【岩本委員】

- ・それと建物についてですが、ひまわりの里は丘陵になっていますよね。そこにこんなに広い建物を建てるということは平らに建てないとだめですね。ということは展望台と同じように、観光センターを3階4階にして展望台として使うことはできないですか。

【田口委員】

- ・そういう話もこれまでの委員会の中で話をさせていただき、その中で観光センターと展望台を別々にするという話になりました。

【岩本委員】

- ・失礼な話をして申し訳ないのですが、さも壊れそうに見えて心配。そうであればもう少し箱物にして五稜郭にあるようなあんな展望台にするとかそういうことにはならないのですか。

【田口委員】

- ・倒れそうか倒れそうじゃ無いかと言う点では全く問題ないと思います。

【岩本委員】

- ・恰好はいいんですけど。恰好いいものが長持ちするかと言ったらそうではないですから。

【田口委員】

- ・長持ちするかしないかでいえば、どんな作り方をしても変わりませんから。

【岩本委員】

- ・30年でしょ？持つって言っても。

【田口委員】

- ・30年とは一般的に言われている鉄骨造の耐用年数です。木材については、床下に床を支えるために使用しています。床が屋根の代わりになり、直接雨かかりにならないようにするなど、木材に対しての最大限の配慮はしております。

【岩本委員】

- ・感じたまま言わせて頂きました。

それと里の入り口をなんとか広げていただくことにはできませんか。観光バスの出入りがせわしなくて見てられないですからせめて今の倍くらいにしてくれればいいのではないかなと思います。

【高橋副町長】

- ・里から出てくる道路のことですよね。国道が渋滞してスムーズに行かない。出口で混雑する。色々課題があるのですがどうすればスムーズに出られるのか。国道で渋滞している訳なのでどこに言えばいいのか検討している最中ですので岩本さんのご意見も参考にさせていただきます。

【岩本委員】

- ・事故を起こしたという話も聞きますから起きないように検討してください。

【高橋副町長】

- ・分かりました。参考にさせていただきます。

【鈴木委員長】

- ・こうしたら魅力的になるというような意見をもっと積極的に聞かせて頂いて協議していけたらと思います。
- ・提案の前に谷垣さんの方から話があります。谷垣さんは大学で学生に北竜町についてコンペを出したということです。谷垣さん、お願いします。

【谷垣委員】

- ・今はハードの方のお話しを進めているんですけども私の方はソフトの方でお金をかけずにいいアイデアがないかということで勝手ながら課外活動として大阪府立大学で先生をしておりまして地域想像として去年の暮れに80人くらいの学生18~20歳位の学生に北竜町の意見を出してくれよということで70人くらいに言いました。それを関係機関に見て頂いた結果その中で3つ皆さんに見てもらいたいなと思います。そのほかにもたくさん頂いたんですけども、私からは出ない柔らかな意見で私も刺激を受けましたので。何か皆さんのソフトづくりのアイデアになればと思います。これからもソフトづくりをするときには若い意見も取り入れてください。下浦さんに説明してもらいます。学生にはお金はかからないようにしてくれと言ってそれを前提に聞いていただけたらと思います。どうぞ聞いてください。

【下浦主事】

- ・皆様長時間の会議大変お疲れ様です。ご紹介頂きました産業課農業担い手係の下浦です。少々お時間を頂きまして、昨年冬に実施致しました大阪府立大学生による「北竜町ビジネスコンテスト」と題しまして企画を行って参りましたので内容を簡単にご報告させていただきます。お手元に配布してありますビジネスコンテスト報告書という資料をご覧ください。また、適宜前の方の画面をご覧ください。また、適宜前の方の画面をご覧ください。
- ・地域価値創造論という講義の中で谷垣委員が企業の社会貢献や地域創生をテーマに学生に講義を行っていました。また北竜町ひまわりの里基本計画策定委員会に

も出席して頂いたご縁もあり、そのコラボレーションで学生さんたちに北竜町の課題を解決するビジネスアイデアを提出してもらい委員会で発表してみよう谷垣委員ご提案があり実施してまいりました。本来ですと3月の策定委員会で発表する予定だったのですが、新型コロナの影響で延期になってしまいましたので、ようやくお披露目となりました。学生さんたちには地域の価値の創造ということで、北竜町の産業の価値を知って頂き、新しい価値を学生さんの柔らかい脳で創造してもらい、学生さんに課題を出して頂きました。テーマとするのは、主な町の産業であるひまわりライス等の「農業」、そしてひまわりのまちである北竜町の「観光」に絞って2部門に分けて学生さんたちに課題を提出して頂きました。今回の課題を提出いただいたのは府大生20歳くらい、約70名のみなさんです。こちらの学生さんたちは府内や周りの県からきており、北海道に来たことがない方が多く、文字だけでは町のことがなかなか伝わりません。

そのため、昨年11月に大阪府立大学に私自身がお邪魔して、直接北竜町の魅力や概要、課題を学生さんにお話しさせて頂きました。ひまわりライスの他の町と違う特色ある安心安全な米作りについてや、本町の観光の課題についてリアルにお話頂きました。そのときの写真ですが真面目に聞いてくれています。講義が終わった後に私にメール等で質問して頂き学生さんたちとのつながりを持ちつつ課題の提出に向けて取り組んで頂きました。また、講義後なんですけれどもびっしりとレポートを提出していただきました。内容はひまわりライスに対する安心感を知れたとかSNSを活用してはどうかとか北竜町の名前は聞いたことがあるけど場所は知らないとか率直な意見を頂きました。このビジネスプランをどう評価したかというA4用紙1枚で表に「観光」について、裏に「ひまわりライス」について書いて頂きました。1次評価として谷垣委員が60本のレポートを20本に絞り、町長、副町長、JAきたそらち代表理事、観光協会会長、北竜町産業課長の5名に評価を頂きました。評価して頂いた項目は実現性、地域貢献性、独創性、論理性という4つの基準で1~5点の点数の平均で採点して頂き順位をつけて各部門5本を入賞と致しました。観光の部門で1位となりましたのは1年生の川口周一郎さんです。ひまわり栽培プログラム。ひまわりライス部門では同じく1年生の古木圭那さんの赤ちゃんのおやつです。入賞した皆さんには副賞として町の特産品であるひまわりライス、燦々ひまわり油、黒千石大豆などをセットで渡しました。観光部門の川口さんの中身なんですけど、労働力や人材の確保が可能な実益も兼ねた体験プログラム、古木さんは安心安全なひまわりライスを前面に出すことが出来る赤ちゃんのおやつということかなり実現性の高いレポートをいただけたかなと思っております。別添の資料には1~3位の方のレポートも掲載していますので是非見て頂けたらなと思います。終わってみての私の所感なんですけれども学生ならではの柔らかく捉えている意見が多く僕自身では出ないような意見が多くなっております。また実現の可能性も低くはないかなと思っておりますので是非ご検討頂ければと思います。皆さんに持ち帰り頂き町の基本計画の参考にして頂ければと思います。足早な説明となってしまいましたが、私からは以上です。

【谷垣委員】

- ・ 谷口君のひまわり栽培プログラムについてなんですけどひまわりの里の体験と偶然一致したなと思いました。実現可能なプログラムだなと感じました。赤ちゃんのおやつについてはこの視点は素晴らしいなと思います。私からは絶対に出てこないアイデアです。このような意見を育ていけないかなと思いますしこれは大学生が1ヶ月半考えた内容ですので若い世代の人たちと考えていくと柔らかい考え

が出てくると思います。面白い発想豊かな事業計画になると思います。大阪の学生なので北竜町を知りませんでした。でも、知るとものすごく興味が出てきました。下浦さんにたくさんメールした人もいました。すごい関心は高いです。若い世代の意見がすごくいいなと思います。そういう視点がすごく面白いんじゃないかなと思います。以上です。

【鈴木委員長】

- ・ありがとうございます。大阪府立大学は林学や農学が盛んで、都会にありますが、農業林業を熱心に研究されている学生さんです。これから新しい若い人を引きつけていくことが非常に重要です。赤ちゃんのおやつということで、ひまわりライスを生かした視点としては言われたことを考えるだけで無く、さらに若い人のとがった意見も取り入れていくこともいいと思います。また、谷垣さんの大学の学生さんたちとも北竜町がつながっていったらいいと思います。石川さんと梅原さんにも意見を頂きたい。私が色々調べると地域おこし協力隊が1人もいっしょらないとのことですが、東川町では43名います。展望台を管理したいという人やレストランを管理したいという人もいると思う。コロナの影響で都会では無く田舎で仕事をしたいという人もいます。また海外の人でも地域おこし協力隊になれます。道新で調べたら、ふるさと納税も白糠町は67億です。ふるさと納税では東京でパーティーをやったりしているんです。白糠町は戦略的にやっています。それから企業版ふるさと納税とかいろいろな方法がお金を生み出しています。白糠では67億の半分を使えるそうです。そういう工夫をしていく時代です。白糠町を調べるといち早くウェブ商店街をやったりとか特産品の開発をどんどんやっています。石川さんは会計士として何かありますか。

【石川委員】

- ・石川です宜しくお願い致します。数字の話になりますが、大きな事業を進めようとする予算の話が出てくると思います。例えば年間運営費が3300万ということで、過去の委員会で入場料を取ったらどうかという話が出ていましたが、例えば一人1000円取りましようという話になったときに1000円は高すぎるよという人が多いと思います。他の花を資源とした観光地でとっていなくても、北竜町の花が1000円払う価値があるならば別に高いということも無いと思いますし観光客が30万人来ているとして、大学生以下を無料としても10万人×1000円で1億。これをひまわりの里の整備に充てていくという事ができるのではないかなと思います。家族で映画見に行くと、大人2人子ども2人で5000円くらいかかりますしポップコーンとジュースを買えば6~7000円になります。それなら北竜町に行って大人2人2000円、さらにメロンやスイカを食べても4000円であれば決して高くないし、いい経験もできると思います。今ハード面を整備してよりよいものになったらソフト面も皆さんのアイデアで新しい体験だったり新しいスイーツなりが出来てくれば北竜町の価値が上がるわけですからお金払ってでも北竜町に来たい人が増えれば財源も心配がなくなりよりよいひまわりの里になってくると思っておりますので皆さんの意見を集めてよりよいものを作っていったらと思っております。以上です。

【鈴木委員長】

- ・先ほども言いましたがふるさと納税で3億あるわけですからアイデアを出していけば可能性があるということです。
梅原さんはどうですか。

【梅原委員】

- ・私も調べましたら、全国で「ひまわりの町」が100ほどありまして北竜町が元祖というような資料はありませんでした。今回隈研吾さんの設計で木組みのタワーができる100ある中で自ずと1番になります。これで自然に元祖になるという訳です。木を使った町、法隆寺1500年くらい前に立てたものが修復をしながら今もあります。北海道のカラマツを使ってエレベーターもあるようなシンボルがあれば人がたくさん訪れるでしょう。「建築」が社会の中で果たす役割がクローズアップされているのです。人がたくさん訪れれば、持ち帰るお土産や特産品が弱いと私は思います。一緒にやろうと言ってエネルギーを持って1つのものを作り上げることは非常に難しいことです。これまで練習していないからですよ。高知で例えると「鰹」です。「薫（わら）」で焼くことで「薫焼きたたき」ができ、年商60億の商品になりました。さきほど谷垣さんが「赤ちゃんのおやつ」と言いましたが本質がありますよね。10年くらい前にドコモが出した「シルバーフォン」が全然売れませんでした。俺らは「シルバー」じゃないとおもったからです。ところが、「らくらくフォン」に名前を変えると数十倍の売り上げになりました。ちょっとしたヒントで商品は売れるということです。開発プロジェクトを立ち上げ、来る人が持ち帰りたくなる商品を作りませんか？最終目標は新千歳空港にそれが置かれるということです。プロジェクトをスタートさせたいと思います。

【鈴木委員長】

- ・ありがとうございます。北竜町で新しいことをやると言ったら何か。ひまわりについても安全な米についても何か話題性がなければならぬので皆さんも頭を柔らかくしてください。東京で梅原さんがデザインしたひまわりの袋を持っていくと非常に目立ちます。びっくりしてこれどこの米と言います。先ほどの白糠町は東京に行って食事会をしています。みんなが喜ぶことをしたらその先に町の歴史が刻まれるのではないかなと思います。さらに新しい展望台を作ることによって長い歴史に刻まれるようになると思います。ひまわりのまちづくりをこんなに長くやっている町は他にありません。新しい展望台や安全なお米で町民みんなと一緒にアイデアを出して北竜町が輝けば、私もいろいろな人をお連れしたいなと思います。佐々木さんにも一言頂きたいと思います。

【佐々木委員】

- ・道総研の佐々木です。
道内でどのようなことがあるのか1つ事例を紹介したいと思います。町民の皆さんが発信して作ったものです。津別町という道東にある町なんですけれども皆さん知っていますか。クマヤキが非常に有名で津別町の道の駅でしか食べられないです。道内道の駅の美味しいものランキングで3位です。クマヤキは町民の方が商品開発やデザインをしたもので、くまのデザインが非常にかわいなお菓子です。クマヤキのようなものが全道にいくつもあり、我々も事例を集めていますので、ご協力できることがあると思います。商品開発等があれば是非ご相談ください。一方で、町民の方だけでは出来ないこともあると思いますが、地域おこし協力隊の制度を活用する

ことも1つの方法だと考えています。一般に地域おこし協力隊では、観光振興への協力等をしてくれる方を募集していますが、もう一步踏み込んだ募集をすることもありなのかと考えています。例えば北竜町の目玉になるようなお菓子を作ってくれる人を募集するなど、北竜町にプラスになるような人を募集することも1つの方法だと思います。そのときに町民の方やここにいる先生方が審査するような仕掛けを作ることで、より魅力的な商品開発が出来るのではないかと考えています。長くなりましたが以上です。

【鈴木委員長】

- ・この前佐々木さんに発表して頂いたとき、ひまわりの里に来た人の購買率が低い、客単価が低い、今後、新しい展望台の完成に合わせて、購買率を上げたり客単価を上げたりすればいいとおっしゃいました。まだまだ開発の余地がある町だと思います。前に言いましたが、地域おこし協力隊にも北竜町でやりたいことをやって頂く良いと思います。
- ・この計画をより良くするということで他に提言などがある方はいますか。後ろで傍聴されている方の中でも何かある方はいますか。
ないようですので、まだまだ構想を作ったばかりなので観光協会や商工会や農協などもよりよい計画にするために様々な意見を出し合っただけだと思っておりません。これを持って報告書を町に提出する事で進めていきたいと思っています。
議事は以上です。

【細川課長】

- ・鈴木委員長から町長へ計画書を渡して頂きたいと思っています。

【佐野町長】

- ・北竜町のこれからの発展のためにはひまわりの里を中心とした町づくりが必要でありますから、これからの子どもたちのためにも関係の皆さんにも理解して頂きながら財源を確保し進めていきたいと思っています。

【細川課長】

- ・ひまわりの里基本計画策定委員会を終了したいと思います皆様お疲れ様でした。